

# 日本株はバブルの呪縛から解放で新ステージへ



シニア・ストラテジスト 石黒英之

## ポイント① 日本株はバブルの呪縛から解放

22日の東京株式市場で、日経平均株価が1989年末につけた史上最高値（38,915円）を更新しました。日本株はバブルの呪縛からようやく解放され新たなステージに入ったといえます。

日本株を取り巻く環境は良好です。23年10-12月期の日本の名目GDPが過去最高を更新するなど、デフレ脱却の確度が高まりつつあることはプラス材料です。また、東京証券取引所が取り組む企業改革の進展期待や、世界的なテクノロジー需要の拡大期待の高まりも日本株の先行きをみる上で支援材料と考えられます。日経平均株価は最高値を更新したとはいえ、長期のパフォーマンスでは米国株に対して大きく劣後した状態にあり、経済や企業の構造転換が今後も継続するのであれば、日本株の見直し余地は依然大きいといえそうです（右上図）。

## ポイント② 業績面からみた割安感目立つ日本株

日経平均株価はバブル期の高値時と比べ、業績面からみた株価の投資尺度であるPERの過熱感が乏しいことも見逃せません。バブル高値時の東証1部の予想PERは60倍程度でしたが、22日時点の東証プライムの同PERは16.5倍に過ぎません。

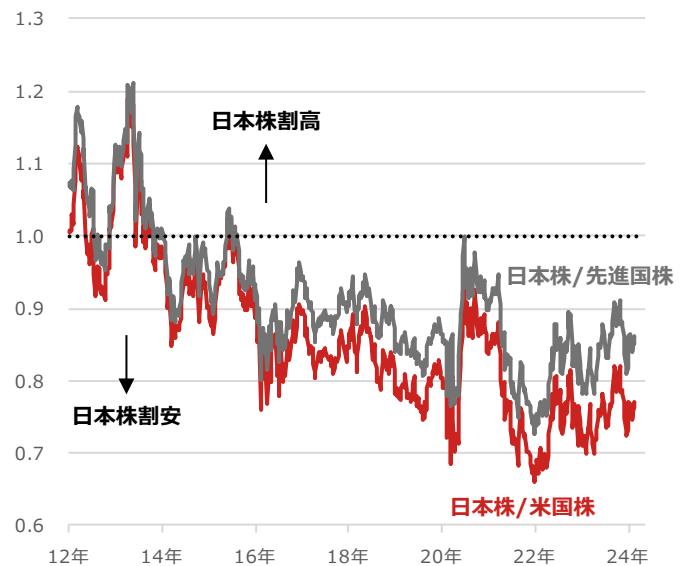
海外株との比較でも日本株の業績面からみた割安感が目立っています。日本株と米国株、先進国株の12ヵ月先予想PERの相対指数をみると、日本株は米国株に対して24%、先進国株に対して15%程度割安な状態にあります（右下図）。その点で、期待先行の株価上昇で過熱感があつたアベノミクス相場初期と現在とでは大きく異なるといえます。日経平均株価の最高値更新により海外投資家の関心が一段と高まりやすくとみられる中で、日本株の上昇基調は当面続くと考えられます。

日経平均株価・S&P500種株価指数と日本の名目GDP（国内総生産）



期間：（日経平均株価）1984年3月末～2024年2月22日、四半期  
（S&P500種株価指数）1984年3月末～2024年2月23日、四半期  
（日本の名目GDP）1984年1-3月期～2023年10-12月期、四半期  
（出所）Bloombergより野村アセットマネジメント作成

日本株/米国株・日本株/先進国株の12ヵ月先予想PER（株価収益率）相対指数



期間：2012年1月6日～2024年2月23日、週次  
・日本株：TOPIX（東証株価指数）  
・米国株：S&P500種株価指数  
・先進国株：MSCI World Index  
・TOPIXは2024年2月23日が祝日のため2024年2月22日の数値を用いた  
（出所）Bloombergより野村アセットマネジメント作成

\*当資料は、一部個人の見解を含み、会社としての統一の見解ではないものもあります。

当資料は、投資環境に関する参考情報の提供を目的として野村アセットマネジメントが作成したご参考資料です。投資勧誘を目的とした資料ではありません。当資料は市場全般の推奨や証券市場等の動向の上昇または下落を示唆するものではありません。当資料は信頼できると考えられる情報に基づいて作成しておりますが、情報の正確性、完全性を保証するものではありません。当資料に示された意見等は、当資料作成日現在の当社の見解であり、事前の連絡なしに変更される事があります。なお、当資料中のいかなる内容も将来の投資収益を示唆ないし保証するものではありません。投資に関する決定は、お客様ご自身でご判断なさるようお願いいたします。投資信託のお申込みにあたっては、販売会社よりお渡します投資信託説明書（交付目論見書）の内容を必ずご確認ください。